

蒼穹

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今

松本大学学報

Vol.156
2024.9



総理大臣杯で見事ベスト8入りを果たした男子サッカー部

特集

松本大学のブランド化をめざす教育改革案

学生が考えたパフェが岩岳リゾートで提供!	04
「青少年のための科学の祭典長野大会」に参加	05
活躍する大学院生	08
総合グラウンドのクラブハウスが完成	09ほか

松本大学のブランド化をめざす教育改革案

松本大学に着任して早5か月が過ぎました。松商学園の法人運営や松本大学の教学運営の特色・強みや課題も徐々に理解できるようになり、併せて法人の教職員や同窓会・後援会が一体となって松商学園の発展に取り組む姿勢を強く感じているところです。この間の温かいご支援・ご協力に心から感謝と御礼を申し上げます。

松本大学・松本大学松商短期大学部
学長 清水 一彦

3本の矢による改革プラン

さて、学長職として本学の改革の基本方向を「学生のことを考え、常にイノベーション(教育革新、価値形成)を起こすこと」と捉え、このたび3本の矢にちなんで3つの改革ポリシーに基づく教育改革案を作成しましたのでご披露したいと思います。

第1は、松本大学の卓越した地域貢献力向上のための基本ポリシーです。本学は、学園の建学の精神「自主独立」に基づく人間教育を行うことにより、その基本理念である「地域貢献」を反映した地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成

し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的としています。この目的を達成するために、地域に開かれ地域と向き合う、地域の知の拠点としての大学の使命・役割をしっかりと果たし、これまで培ってきた地域貢献活動をさらに促進させ、地

域から信頼できる大学を着実に実現していくという考え方を共通しながら、3つのレベルにおける地域貢献事業を策定することにしました。

第2は、松本大学R-T-Sネクサス実現のための基本ポリシーです。これは、本学が、最高学府の高等教育機関として、学術研究(Research)、教育(Teaching)、及び学修(Study)の統合を目指し、すべての教員の教員力の向上を図るために定めるものです。言うまでもなく、真理を探究する研究力は大学の生命線であり、研究力を担

保して学生の学びを深める教育力とのいわば「大学の両輪」は、大学が社会に貢献し、一方で社会からの支援を受けるためには不可欠なものです。また、大学には学生の自主的な学びや成長実感が得られる学生の学修の視点がますます重要となっています。学生の自主性・自律性を育て、社会へ有能な多様な人材を送り出すためには、学生主体の学修モデルの転換が必要となります。こうした考え方により、学生の学修力の向上・充実を目指したR-T-Sネクサス(研究と教育と学修を統合)を改革の基本

表1 教育改革案

3本の矢松本大学教育改革案(まとめ)		
地域貢献力向上のための基本ポリシー	R-T-Sネクサス実現のための基本ポリシー	教学マネジメント指針
1. 世界に挑む産業界トップリーダーによる連続リレー講義(グローバルレベル) ★	1. 研究力の向上方策 (1)松本大学学術研究助成制度★ (2)科研費申請奨励制度★ (3)若手研究者研究奨励制度★ (4)優秀教員学術研究奨励制度★	1. 山岳特別教育プログラム★ 2. 大学等設置基準改正への対応★ 3. 学修成果の評価・可視化★
2. 地域活躍人材の連携教育講座★(ローカルレベル)	2. 教育力の向上方策 (1)博士学位促進制度★ (2)教養教育促進制度★ (3)優秀教員教育指導奨励制度★	4. 地域貢献評価指標の開発★ 5. サパティカル制度の策定★ 6. ステークホルダー参画制度の構築★
3. 松本大学社会人リカレント連携講座★(リカレントレベル)	3. 学修力の向上方策 (1)上野賞、赤羽賞★ (2)学業成績優秀者・学業成績上位者表彰制度★ (3)学長賞 ①地域貢献の部★ ②学術・課外活動・社会活動の部★ (4)学生会活動奨励制度★	7. 教育職員評価の制度化★ 8. 教職分離による学部学科の再編計画★
	4. 総合力 (1)学長賞・松本大学ベスト・スタッフ・オブ・ザ・イヤー★ (2)R-T-Sネクサス賞★	

方針の一つに据え、研究力、教育力、学修力に関わる方策を実施したいと思います。

第3は、松本大学における教学マネジメント指針です。これは松本大学ガバナンス・コード及び松本大学自己点検・評価規程に基づいて制定されるものであります。この指針では、大学の教育成果や学生の学修成果の把握・可視化を実行しつつ、不断の

自己点検・評価を通じて体系的かつ組織的な大学教育の改善に取り組むために、カリキュラムの改善、学修指導法の改善、教育の実施体制の確立、教職員の資質の向上、及び内部質保証と情報公表の各項目について定められています。さらに、この指針では、関連して特色ある地方大学の実現のために、建学の精神や教育理念に基づ

き、未来の松本大学を創造するための新たな制度システムの開発・実践も含まれています。

以上の3つの基本ポリシー・指針に基づき、具体的な改革プランは表1にまとめてみました。これらの中で、すでにその実現を目指して制度設計に取り組んでいるものを2~3紹介したいと思います。

実現を目指し現在取り組んでいる制度設計の事例

世界に挑む産業界トップリーダーによる連続リレー講義

1つは、未来志向型の「グローバル」(グローバルとローカル)人材の育成を図ることを目的とし、本学の学生を対象とした科目として、自治体や産業界等と連携し、学外から講師を招き開設する「地域貢献未来構想大学」講座の一つに位置づけた、「世界に挑む産業界トップリーダーによる連続リレー講義—KAE山城会による『コーポレート・マーケティング』授業」で

す。これは山城経営研究所(元一橋大学教授山城章氏が経営リーダー育成のため1972年設立、所属会員数1,650名)の経営フォーラムを卒業し、各業界で経営リーダーとして活躍した講師陣(現役を含

む、表2)が2単位15回の授業を担当するものです。すでに双方でそのための連携協定を締結し、次年度から総合経営学部で実施する予定になっています。

表2 コーポレート・マーケティング授業の担当者

(1)電 機：ソニー、富士通、パイオニア、IBM、東芝	(6)食 品：キューピー
(2)化 学：花王、富士フィルム、資生堂	(7)運 輸：JR東日本、JR東海、ヤマト運輸、日本郵船、JAL
(3)機 械：キャノン、富士フィルムイノベーション(旧富士ゼロックス)、オムロン	(8)金融・保険：住友生命保険、アフラック、JCB、興銀
(4)鉄 鋼：新日鉄	(9)広 告：東急エージェンシー
(5)通 信：NTT	(10)その他：藤田観光、良品計画、BS朝日

山岳特別教育プログラム

2つは、教学マネジメントの指針に関わるもので、本学の学生及び一般社会人を対象に、岳都松本にふさわしい信州の「山」を軸に、観光、環境、健康・スポーツ、文化、防災、交通、産業など多様な視点から理解を深め、地域の魅力を再認識し、地域の未来像を考える機会を提供することを目的とするものです(表3参照)。教室での座学にとどまらず、オンラインの活用や現場での演習や実践も重視する予定です。

修了後は案内自然ガイド、登山ガイド、山岳ガイド、クライミングインストラク

表3 信州山学マイスター養成制度(概要)



ター、スキーガイドの資格検定試験等につなげたいと考えています。これは単発的なものではなく、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、総時間数60時間以上で修了者には「信州山学マイスター」の履修証明書(certificate)を交付するという国の制度を活用して実施するものであります。早ければ来年度から実施したいと考えています。

以上のように、これから進めようとして

いる改革は、大学の自主的・自律的な質保証システムを機能させる内部質保証システムの構築として位置づけ、PDCAサイクルの確立を通して、松本大学のブランド力を高めるための方策群です。スピード感と実効性をもって取り組んでいきたいと思

います。重ねて、今後とも同窓会や後援会をはじめとするステークホルダーの皆さんの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



7月31日には、学内教職員参加のFD・SD研修会を行い、教育改革案について説明

地域連携活動



● 地域づくり考房『ゆめ』

学生の新たな試みを取り入れ 盛大に行われた「すすき川花火大会」

地域づくり考房『ゆめ』の学生プロジェクト「すすきはなプロジェクト」が関わっている「すすき川花火大会」が、8月9日に開催されました。毎年、学生がポスター・チラシ、うちわのデザインをしたり、ラジオCMの収録、SNS運営等花火大会を盛り上げるために様々な活動をしています。撮影した花火の写真を応募してもらって学生主催の「フォトコンテスト」は、今年は上高地線の中吊り広告にも掲示をしたり、当日に観覧エリアにてコンテストの宣伝をしたり等、工夫を凝らしていました。その成果もあり、今年は例年に比べて多くの応募作品が寄せられました。試行錯誤しながら花火大会当日まで駆け抜け、みんなで観た花火は大変感動しました。

(地域づくり考房『ゆめ』中島 麻衣)

● 地域健康支援ステーション

認知症予防の食事をテーマに 松本市岡田地区で栄養講座を開催

「認知症予防の食事とは」をテーマに、松本市岡田地区住民の方々とともに“自分の健康は自分たちでつくり守ること”を目的とした栄養講座を開催し、約40名の方にご参加いただきました。認知症予防には、この食品・食材を摂れば大丈夫という食べ物はなく、健康管理の三本柱である食事・運動・睡眠(休息)のバランスがとても大切になります。その一つである食事について、食事シミュレーションツールを使い、毎日の食事と生活を振り返る演習とバランスのとれた食事のかたちについて、身体に必要な栄養素とその働きや疾病について確認をしました。参加者の方から、「料理カードを使った食事シミュレーションで食事内容の振り



返りをすることが出来て、とても今後の参考になった」「今から将来に向けて食事に気を付けていきたい」「健康に過ごすためにはからだに栄養素が大切だと知った」などの声が寄せられました。今後も地域の皆さまへ向けた健康づくりのサポートをして参りたいと思います。

● 最近の活動から

学生が考えたパフェが岩岳リゾートで提供!

2023年7月に産学連携協定を締結した岩岳リゾート(蒼穹152号掲載)との取り組み第2弾として、松本大学松商短期大学部金子ゼミの学生が考案した、地元食材を使用した各種パフェメニューが、「Hakuba DELI STAND」にて8月1日から11月17日まで提供されています。山頂からの景色を眺めながら、非日常感と合わせてお楽しみください。

(松商短期大学部商学科 教授 金子 能呼)

※メニュー・食材は予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。



夏いちごのパフェ

産学連携協定 新メニュー

- 夏いちごのパフェ
期間:8月1日(木)~8月31日(土)(終了)
- チョコバナナパフェ
期間:8月1日(木)~8月31日(土)(終了)
- ミント香るコーヒーゼリーパフェ
期間:9月1日(日)~10月14日(月)(予定)
- 抹茶ゼリーパフェ
期間:9月1日(日)~営業終了まで(予定)
- シャインマスカットパフェ~初秋の岩岳~
期間:9月24日(火)~10月14日(月)(予定)
- 秋色のリンゴジュエルパフェ
期間:10月15日(火)~
営業終了まで(予定)

各種パフェの詳細は、
大学HPIで紹介しています。



「青少年のための科学の祭典長野大会」に参加

8月6日、長野市信州大学教育学部で開催された「青少年のための科学の祭典長野大会」に総合経営学部と教育学部の学生たちが教員と一緒に参加し、4つのブースを出して、子供たちに科学の楽しさを伝えました。

総合経営学部観光ホスピタリティ学科(地域防災科学研究所)の入江さやか教授のブースは「地震に強い家はどんな家?」というテーマで、子供たちにペーパークラフト風の模型「紙ぶるる(名古屋大学が開発)」を組み立ててもらい、X字型の「すじかい」を入れることで、地震で揺れても建物が壊れにくくなることを実感してもらいました。北田圭一郎さん(総合経営学科4年)は、防災士の授業での学びを生かし、模型の組み立てサポートをしたり、耐震補強の効果について解説してくれました。

同学部総合経営学科からは心理学と情報の2つのブースで、矢崎久教授は「私の目に狂いはない、というのは本当だろうか?」



というテーマで、ゼミ生とともに、動画を交えた錯視図のスライドを使って、図形の大きさや直線が錯覚して見える心理的効果の解説をしました。

総合経営学科の私のブースは、「CDで不思議な色のコマを作ろう!」をテーマに、情報の教員免許を目指す学生たちが、CDを使った簡易なコマの作成指導を行い、自由に色を付けてコマを回して混色の仕組みを考える"色彩表現(マルチメディア論)"の体験ブースを出しました。

教育学部からは澤柿教淳教授が「南極へGO!ペンギンとなかよになれるかな」というテーマで、ペンギンの足の石膏型の作成とペンギンのように斜面を2足歩行する力学ロボットの作成の体験コーナーを開設しました。白衣を着た学生4人の指導を受け、子供たちは石膏型を作ったりねじで組み立てて2足歩行ロボットを作ったりしました。

4つのブースはどれも大好評で、学生たちはブースの開店から閉店まで、次から次へと訪れる親子への対応で大忙しでした。

(大学院総合経営研究科・総合経営学科長 教授 室谷 心)

本学会場に 観光シンポジウム・セミナーが開催

9月19日~20日に本学会場に、松本広域連合とアルプスの風観光推進協議会が主催する大規模シンポジウム、「これからの松本広域観光について—インバウンドの新潮流をとらえた松本広域観光戦略を考える」と関連のセミナーが開催されました。日本政府観光局海外プロモーション部東アジアグループ次長・小島一哲様と、株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター研究員・松本百加里様による基調講演をはじめ、(一社)長野県観光機構とアルピコホールディングス(株)等からインバウンド戦略が紹介されるなど、今後の松本広域地域の観光事業を更に発展させるための新たな知見・意見の交換が活発に行われました。これまで地域連携事業で松本広域連合と強い繋がりがあつた総合経営学科の学生が運営スタッフとして開催に全面協力し、総合経営研究



科の大学院生もディスカッションに参加し、総合経営学科全体でこのシンポジウム・セミナーを盛り上げました。今回の開催を通じて、「知の交流拠点」としての本学の役割が、あらためて高く評価されました。

(大学院総合経営研究科・総合経営学科 専任講師 岡崎 滋樹)

健康栄養学科1年生が、 アーリー・エクスポージャー(早期体験学習)を実施 ～「家畜が食品になる」現場を見学～

健康栄養学科長 教授 高木 勝広

6月12日と19日、松本市食肉衛生検査所でアーリー・エクスポージャー(早期体験学習)を実施しました。食肉衛生検査所は、食肉の安全・安心を確保するために、と畜検査や衛生指導を行う機関です。と畜検査とは、「と畜場法」、「牛海绵状脳症対策特別措置法」および「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、安全な食肉を提供するために行う検査です。病気や異常がないか、食用に適しているかとと畜場(家畜を食用にするために解体処理する施設)で1頭ごとに検査します。検査に合格した食肉が販売されるため、私たちは安心して食べることができます。

松本市食肉衛生検査所では、現場見学と業務説明を行っていただきました。はじめにと畜場に搬入された家畜を見学しまし



た。家畜は搬入からすぐには処理されず、1頭ごとに生体検査をし、問題がなければ翌日に処理されるそうです。その後、学生たちはヘルメット、白衣と手袋等を着用し、解体検査、枝肉検査等の現場を見学しました。

座学では、はじめに食品衛生に関する講話で、松本市保健所食品・生活衛生課の体制や業務内容、食品衛生監視員の仕事内容、HACCP等について話がありました。さらに検査所の概要と検査の食肉衛生流れ等についても説明していただきました。農家から家畜として生きた状態でと畜場内に搬入され、検査後には枝肉となり、食品として流通することやもともと家畜の肉には細菌はいないが、枝肉になったときは細菌はゼロにはならないため、処理場では枝肉に細菌をつけない増やさない努力を最大限にしている等、食品衛生に関する貴重なお話を伺いました。

本学科では管理栄養士の受験資格の他に、食の安全性に関する資格である、食品衛生管理者・食品衛生監視員やHACCP



管理者等の資格も取得することができません。栄養を営むには食品、食物が必要ですが、その食品は安全でなければなりません。そして、食品の多くは、家畜などの命をいただいたものであり、この部分は食育とも関係します。

1年生も大学生活に慣れてきたところだと思いますが、学業に不安を感じ始めている学生も少なくありません。このアーリー・エクスポージャーは、職業に対する使命感や大学で学ぶモチベーションを高めることを目指したプログラムです。こういった学びから、自分が大学に入学した目的を再確認したり、また興味のある新たな分野を発見したりして、やる気を満タンにし、4年間の大学生活を最大限に実りあるものにしてほしいと願っています。

今年度訪問現場(予定含む)

- ・松本市東部給食センター・株式会社アリアファーズ
- ・陸上自衛隊松本駐屯地
- ・山形村保健センター(乳幼児健診)
- ・ゴールドパック株式会社あずみ野工場
- ・朝日村(乳幼児健診)・信州ミルクランド株式会社

学生主体で地域課題の解決策を議論 「第3回三大学学生交流課題研究会議」が鹿児島で開催

学生課 主事 浅見 涼

9月3日から9月6日にかけて、「第3回三大学学生交流課題研究会議」が鹿児島国際大学で開催されました。この会議は札幌大学・鹿児島国際大学・松本大学の3大学の学生が集まり、多様な価値観を共有しながら、学生主体となって地域課題について議論するものです。



今回の議題である「まちづくり」について、総勢20名程度の学生が3グループに分かれて、ディスカッションを行い、若者らしい着眼点で、活火山を利用したまちづくりや県同士での交換留学プランを考えるなど、課題に対する解決策を提案しました。会議以外の場面でも、和気あいあいと



した姿が見られ、最終日は、後ろ髪をひかれる思いで帰路に就く学生らを見ると、普段の活動では得られない経験をすることができたのではないかと感じました。この経験がこれからの将来の糧になること、そして、この交流会が未長く続くことを願ってやみません。

参加した学生の声

総合経営学科2年
古屋 理公さん



今回の交流は「まちづくり」について話し合い、発表を行いました。会議を通じ、改善策の実行に至る手法や持続できる収支計画についても検討するなど、より具体的に議論を深めることや地域の良さへの気づきが大切であると学ぶことができました。他にも、学生間の交流や鹿児島市内を周遊することによって多くのことを学べたのでこの経験を大切に、様々なことに繋げていきたいと思いました。

被災地へ思いを寄せて、

教育学部の学生たちが オンライン交流会を実施!

学校教育学科 准教授 下山 恵子

教育学部下山ゼミでピア・サポートを学ぶ学生たち(ピア・サポーター:日本ピア・サポート学会認定資格)が、石川県能登町宇出津小学校3年生のみなさんと、「繋がる」をテーマに全3回のオンライン交流会を実施しました。この企画は、被災された子どもたちに、繋がることの喜びや幸せを伝えたいという思いからスタートし、現地で教員として、活躍されている卒業生の片岡千晶先生(教育学部2023年3月卒業)のおかげで実現へと辿りつきました。教育学部の「絆」は永遠です!

被災から約半年を迎える7月2日、第1回目はリレーションづくりとして「褒めること、褒められること」について実施しました。3年生のみなさんからは、「とても良い気持ちになった」「ほめて、どちらも笑顔になってうれしかった」「少し友だちと仲良くなりました」といった感想をいただきました。第1回目の学生リーダーからは、「初めてオンライン授業を実施し、子どもたちの様子を画面で見ながら授業を進めることの歯痒さを感じました。この経験を活かして、これからも頑張りたいです」と、今後の活動への意欲を湧き立たせていました。



7月9日の第2回目では、「お友だちを大切に話す話のきき方」について学びを深めました。たくさんの笑い声が溢れ、オンラインを超えたつながりを体感する機会とな



り、「話し相手が増えた感じがしてうれしかった」「“あいうえおのおやくそく”を使うと、自分も相手もうれしくなる」「友達の好きな〇〇を知れました」など、学生たちのこれまでの努力が報われる嬉しい感想をいただきました。第2回目の学生リーダーは、「心のつながりを感じることができました。“あいうえおのおやくそく”を使って、友だちと関係を深めていく子どもたちを見て、嬉しくなりました」と、サポートする幸せを感じていました。これぞピア・サポートの醍醐味!

最終回となる7月16日は、「もめごとへの関わり方(対立解消法)」について学びました。3年生のみなさんは、積極的に手をあげて発表してくれ、ロールプレイにも一生懸命に取り組んでくれました。最後に、学生たちに向けて嬉しいメッセージをいただきました。学びへの好奇心や、学生たちへの親しみを感じさせていただける素晴らしい機会となりました。アンケートでは、「3回とも、とても楽しかった。」「交流会で習った決まりを守れそうと思った。」など、たくさんの感想をいただきました。第3回目の学生リーダーは、「難しい内容だったにも関わらず、楽しそうに活動してくれてよかったです。『もう一回やりたい』『楽しかった』という言葉をいただき、嬉しかったです。今回の経験を活かして、他の学年や学校でも実施したいです。」と強い意欲を見せていました。みんなで「バイバーイ」の大きな声といっぱいの笑顔で別れの挨拶をして3回の交流会は終了しました。

寄稿

能登半島地震復興支援イベントとして「フラ・イズ・アロハ」を開催 卒業生が勤務する小学校へ寄付

松本大学名誉教授 山根 宏文

8月24日に、「第10回フラ・イズ・アロハ」を開催しました。私が、松本大学在職中に9回開催し収益金はすべて東日本大震災の支援活動する本学学生の支援金として寄付してきました。今回は能登半島地震で被害にあった石川県能登町宇出津小学校に贈ることを目的として開催することとしました。この小学校を選んだのは、教育学部卒業生の片岡千晶さん勤務しているからです。彼女は在籍中、マツナビや地域づくり考房『ゆめ』でいつも元気澁刺で活躍してくれました。彼女の自宅も倒壊したのですが、25人の生徒と共に頑張っています。

今回のイベントでは、支援費用捻出のために販売用として5軒の農業生産者の方々が大量の果物、野菜などを無料で提供していただきました。このうちの3軒は東日本大震災で被災し、こちらに移住して農業を始めた人達です。さらに、運営は教育学部、観光ホスピタリティ学科の卒業生の方々が同窓生のために手伝ってくれました。

ハワイ語のアロハとは愛という意味です。そして、アロハ(愛)を分かち合うこと。



これがハワイアンな生き方です。フラ(ダンス)を通してアロハ・スピリットを実感したイベントでもありました。

健康科学研究科の篠崎さんが

「第78回日本体力医学会大会」で 大塚スポーツ医・科学賞を受賞

大学院健康科学研究科
スポーツ健康学科
教授 河野 史倫

9月2日～4日に佐賀大学で開催された「第78回日本体力医学会大会」において、本学健康科学研究科博士前期課程1年の篠崎智貴さん(スポーツ健康学科2024年3月卒業)が大塚スポーツ医・科学賞(奨励賞)を受賞しました。本賞は、日本体力医学会と大塚製薬の共催により



左から篠崎さんと永富良一日本体力医学会理事長
(東北大学)

設立された「スポーツ医・科学の研究分野における主として若手研究者の育成及び振興」を目的とした学会賞で、今年は約140件の対象演題から選出されました。

篠崎さんは大学3年次から骨格筋の運動効果を増進する仕組みについて研究を行い、卒業論文をまとめたものが、今回受賞した演題にもなっています。運動に対する遺伝子の反応を制御する"エピジェネティクス"という仕組みに着目し、「習慣的な運動はなぜ骨格筋の運動応答性能を亢進するのか」という研究課題にアプローチしました。

その結果、骨格筋の幹細胞であるサテライト細胞の活性化と運動により起こるエピジェネティクスに深い関わりがあることを明らかにしました。篠崎さんは現在



受賞講演を行う篠崎さんと座長の松山郁夫大会長
(佐賀大学名誉教授)

博士前期課程にてこの課題についてさらに研究を進めています。運動により起こるエピジェネティクスは運動効果を記憶する仕組みとしても知られており、生涯を通じて衰えにくい体質をつくるためにはどのような運動習慣が必要なのか、その科学的知見を本学から発信できるよう今後も研究を進めていきたいと思ひます。

この度は大変素晴らしい賞を受賞することができ、日本体力医学会選考委員の先生方、受賞講演の機会を与えてくださった第78回大会の関係者様、そして大塚製薬様に感謝申し上げます。

「第32回日本運動生理学会大会」で 学生研究奨励賞を受賞

8月22日～23日に金沢大学で開催された「第32回日本運動生理学会大会」において、健康科学研究科博士前期課程1年の篠崎智貴さんが学生研究奨励賞を受賞しました。篠崎さんは「運動による骨格筋ヒストンタンオーバーの活性化におけるサテライト細胞の役割」というタイトルで口頭発表を行いました。本学からこのような研究成果を発信できたことを、大変光栄に思ひます。また、選定して下さった日本運動生理学会の皆様へ深く感謝申し上げます。



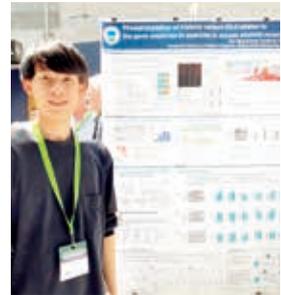
左から篠崎さんと
増田和美大会長(金沢大学)

アイルランドで開催された 国際学会で研究成果を報告

7月9日～11日にリムリック大学(アイルランド)で開催されたIBEC2024(International Biochemistry of Exercise Conference)に健康科学研究科博士後期課程3年の清水純也さんと博士前期課程2年の丸山翔さんが参加し、国際学会で研究成果を報告しました。マルチオミクス解析を駆使した運動による生体応答を全臓器で経時的に把握する研究や、運動中に摂取した糖の利用効率を試験した研究、骨格筋肥大を誘発するための糖の重要性を実証した研究など、最先端の運動生理学研究トピックに触れることができました。本学からは、骨格筋における運動効果のブーストやメモリーに関わるエピジェネティクスの仕組みについて研究成果を報告しました。



清水純也さん



丸山翔さん

2024年度 科学研究助成事業に新規採択された本学教員の研究

自己調整を促す対話的地球温暖化学習プログラムの指定と南極教材の開発
教育学部 学校教育学科 澤柿 教淳 教授 ○期間：2024年度～2028年度

松本尋常小学校(旧開智学校)の国語科授業の実態解明
教育学部 学校教育学科 上月 康弘 准教授 ○期間：2024年度～2026年度

パーソナリティに関する暗黙理論が適応指標に与える影響
教育学部 学校教育学科 海沼 亮 専任講師 ○期間：2024年度～2027年度

Functional adequacyを反映した英語ライティング評価ルーブリックの開発
教育学部 学校教育学科 菊原 健吾 専任講師 ○期間：2024年度～2025年度

NEWS & TOPICS

シンガーソングライター
ヒグチアイさんをお招きました

7月28日、シンガーソングライターのヒグチアイさんをお招きし、「予測不能な時代をどう生きるか」というテーマについてご講演ならびに学生との鼎談をしました。ヒグチアイさんは「進撃の巨人」のエンディングテーマを担当され、公式YouTubeチャンネル(アニメスペシャルバージョン)の再生数が1.2億回(2024年8月6日時点)を超えるなど、大変著名なアーティストです。

ヒグチアイさんのお話の中に使われる言葉の一つ一つが印象的で、参会者の心に響きました。また、代表学生との鼎談では、学生の経験や読んできた文献を基に議論をしました。

将来を見通せず、不安をもつ高校生、学生もいる中、鼎談後の会場は不思議な安心感と、学びの充実感に包まれました。様々な立場の人が一堂に会して話し合うという、とても刺激的な企画でしたが、極めて有意義な時間となりました。ヒグチアイさん、大変ご多用の中、本学にお越しください誠にありがとうございました。

(学校教育学科 准教授 上月 康弘)

「放光寺町会かるた」を
寄贈いただきました

このほど、「放光寺町会かるた」の寄贈がありました。松本市白板地区にある町会の一つで、町会関係者の手作りで作られたものです。大



学とこの町会との関係は、社会的課題として町内の交通弱者を対象に移動支援「お互いさまタクシー」事業を協同で取り組んできたところに寄ります。

このかるたにお互いさまタクシーのことが描かれており、地域住民の譲り合い助け合い(互譲互助)を目的に取り組んできた精神が表現されています。これまで社会福祉を学ぶ学生が中心になって関り、町会の自治活動から多くのことを学んでいます。

(観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸)

ファイナンシャル・プランニング
技能検定2級の合格者を輩出!

総合経営学科では、ファイナンシャル・プランニング技能検定(FP技能検定)の合格者に付与される「ファイナンシャル・プランニング技能士」(国家資格)を重点資格に位置づけ、学生の資格取得を後押ししています。FP技能検定は、顧客の資産状況等を踏まえ「お金」に関する計画立案、相談に求められる技能を検定するもので、得られた知識・スキルはビジネスだけでなくプライベートの場面でも役立ちます。

FP技能検定の3級はCBT方式に移行しましたが、2級は年3回、紙ベースの試験が実施されています。5月実施分の合格発表があり、学科・実技試験の両方に合格した資格取得者は4名を数えました。これまでの努力が実を結んだこと、喜ばしい限りです。資格取得まであと一歩だった方は、ここで諦めることなく、再チャレンジしてみましょう。引き続き、FP技能検定を含め、学生の資格取得をサポートしていきます。

(総合経営学科 准教授 古川 智史)

塩尻市
「地域の人事部」の連携協定を締結

7月5日に、塩尻市、塩尻商工会議所、NPO法人、松本大学、信州大学、地元金融機関及び人材派遣会社など11団体によって、塩尻市における「地域の人事部」連携協定締結式が行われました。この地域で活躍する人材をさらに増やしていきたいということもあり、

本学としては2年前よりこの事業に参画し、インターンシップの取り組みにおいて協力をしてきました。今回の連携協定締結を踏まえ、今後はより一層各協定者と連携を深めながら、地域一体となって人材の育成・定着を目指した活動をしていきたいと考えています。(キャリアセンター課長 中村 礼二)



総合グラウンドのクラブハウスが完成!

総合グラウンドに、地上2階建てのクラブハウスが完成し、7月1日に引き渡しが行われました。

クラブハウスには、更衣室の他、熱中症や体調不良等に対応する救護室、大雨や落雷時の退避スペースにもなるミーティングルームが備わっています。課外活動だけではなく、体育系科目の講義などにも利用することができます。

新しい環境の中、皆さんの活動がより一層充実・活性化することを期待しています。





男子サッカー部

総理大臣杯ベスト8進出!

男子サッカー部は、3年ぶり3回目の出場となった第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントにおいて、1回戦で悲願の全国大会初勝利、続く2回戦では関東大学リーグ1部の伝統校・国士舘大(172)を相手に「大金星」を挙げることができました。続く準々決勝では、同じく関東1部の強豪・東京国際大(382)に敗れたものの、大会前に主将の浅田琉星(スポーツ健康学科4年)が目標に掲げたベスト8進出を果たしました(括弧内は各大学のサッカー部員数です!)。なお、本学と共に準々決勝で敗退した大学は、明治大(32,730)、早稲田大(38,987)及び日本大(74,307)、ここに並ぶ大学名や数字(括弧内は各大学の学部生数です)を見ても、幣部の健闘ぶりがわかっていただけたと思います。

その一方で、あそこまでいったらもう一つ勝ちたかった、というのが本音です。しかし、勝負は本当に紙一重で、自分たちのポテンシャル(潜在的な可能性)を感じたと同時に、再びそこへ至り超える

ことの厳しさ、そして埋めなければならない全国レベルとの差も実感しています。これらを選手たちが自らの身をもって感じられたことが、最大の収穫と言って良いかもしれません。

最後になりますが、大会期間中、教職員の方々の仕事の傍ら(そっちのけの方もいらっしゃったとか笑)、応援をさせていただいたと聞いています。OBからもたくさんの応援メッセージや差し入れをいただきました。皆様の応援が我々の大きな励みになりました、この場をお借りして感謝申し上げます。そして、我々にはまだ続きがありますので、引き続きご声援をよろしく願いいたします。

(男子サッカー部部长兼監督 齊藤 茂)

第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

(9月4日~15日/宮城県・みやぎ生協めぐみ野サッカー場ほか)

- 1回戦 **松本大** 4 - 2 北海道教育大岩見沢校(北海道地区第1代表)
得点者:宮入 寛大(総合経営学科4年)2点、村上 慧斗(スポーツ健康学科3年)1点、北野 大和(総合経営学科3年)1点
- 2回戦 **松本大** 1 - 0 国士舘大(関東地区第3代表)
得点者:河越 大(スポーツ健康学科1年)
- 準々決勝 **松本大** 0 - 4 東京国際大(関東地区第7代表)

女子ソフトボール部

注目してください! 長野県パラソフトボール!!

東京パラオリンピックは人々にパラスポーツの素晴らしさを印象付け、今夏のパリパラオリンピックでも日本勢の活躍に多くの注目が集まりました。2028年には長野でも国民スポーツ大会(旧国体)に続いて、「信州やまなみ全国障害者スポーツ大会(全障スポ)」が開催されます。全障スポの実施種目にはソフトボールもあり、県強化拠点クラ

ブに指定されている本学ソフトボール部は、障がい者の皆さんの強化練習のお手伝いをしています。当然、技術的には本学ソフトボール部員の方が高いレベルにはあり、技術的な指導をすることも多いのですが、障がいを持っていてもソフトボールに真剣に向き合う姿勢、ソフトボールができる楽しさを体いっぱい表現している姿は、私たち



をソフトボールの原点に立ち返らせてくれるようで、私たちにとっても貴重な時間となっています。長野県ソフトボールチームに乞うご期待!!

(女子ソフトボール部 部長 岩間 英明)



オレンジのユニフォームが松本大学



バレーボール部

猛暑の中で熱戦 全日本ビーチバレーボール大学選手権大会に男女ともに出場

8月6日～8日にかけて、第36回全日本ビーチバレーボール大学選手権大会が神奈川県川崎マリエンビーチバレーボールコートで開催されました。本学からは北信越予選会を勝ち抜いた男女それぞれ1チームが出場し、猛暑のなか熱戦を繰り広げました。女子は北澤陽名さん(スポーツ健康学科3年)、伊藤雪乃さん(スポーツ健康学科3年)ペアが出場し、男子は中川夏樹さん(観光ホスピタリティ学科4年)と尾曾怜都さん(スポーツ健康学科3年)、安國洸成さん(総合経営学科1年)が出場しました。女子は予選グループ戦においてあと少しのところまで敗れてしまいました。男子は予選グループ戦で勝利し、決勝トーナメント戦へコマをすすめ善戦しましたが惜しくも敗れてしまいました。

応援していただいた皆さまに改めて御礼申し上げます。今後も温かいご声援をよろしくお願いいたします。(男子バレーボール部 部長 黒川 優)

硬式野球部

2024年度 関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦【日程と速報】

節	月	日	曜	対戦カード	会場
第1節	9	7	土	松本大学 4 - 3 平成国際大学	平成国際大学野球場
第2節	9	8	日	山梨学院大学 7 - 2 松本大学	山梨学院大学川田野球場
第3節	9	16	月	松本大学 7 - 0 新潟大学	HARD OFF ECOスタジアム新潟
第4節	9	17	火	松本大学 1 - 11 関東学園大学	上武大学野球場
第5節	9	22	日	上武大学 9 - 2 松本大学	上武大学野球場
第6節	9	28	土	松本大学 - 新潟医療福祉大学	上武大学野球場
第9節	9	29	日	白鷲大学 - 松本大学	白鷲大学野球場
第7節	10	5	土	松本大学 - 作新学院大学	笠間市民球場
第8節	10	6	日	松本大学 - 常盤大学	笠間市民球場

※本学は、9/22時点で6位。

ソフトテニス部

2024 全日本大学ソフトテニス王座決定戦

(6月7日～9日/滋賀県・長浜バイオ大学ドーム)

- 松本大 0 - 3 四国大(徳島県) (昨年3位)
- 松本大 0 - 3 國學院大(東京都) (今年優勝) 予選リーグ敗退

王座決定戦は、各地域ブロックを勝ち上がった36大学が出場しました。本学からは、女子ソフトテニス部が北信越1部リーグ2位代表として出場し、惜しくも予選リーグ敗退となりましたが、全国の舞台という大きな舞台で得たものを糧にして、今後の更なる活躍にご期待ください。

軟式野球部

第4回全日本大学軟式野球選抜大会

(8月19日～23日/長野県・長野オリンピックスタジアムほか)

- 松本大 6 - 7 岩手大(岩手県) 1回戦敗退

日本アマチュア野球の最高峰である「都市対抗野球大会」に硬式野球部出身の3名が出場



7月に行われた、日本アマチュア野球の最高峰である「都市対抗野球大会」に、2024年3月に本学を卒業した硬式野球部出身の3名が出場しました。塚本強矢選手(日本製鉄かずさマジック所属・千葉県)、石神悠樹選手(エイジェック所属・栃木県)、小林尚真選手(日本製紙石巻所属・宮城県)の3名は、それぞれ所属するチームの地区予選を勝ち抜き、東京ドームの舞台上でプレーすることができました。



塚本選手(中央)と応援に駆け付けた現役部員

本学硬式野球部から都市対抗野球大会常連の強豪チームに入団するのは初めてであり、入団初年度で3名全員が都市対抗本大会出場を果たしたことは大変名誉なことです。実際に彼らが東京ドームでプレーする姿を目にし、非常に感慨深い気持ちになりました。また、応援に駆けつけた後輩部員たちにとっても、とても刺激になったと思います。

(硬式野球部 監督 清野 友二)



日本製紙石巻所属の小林選手



日本製鉄かずさマジック所属の塚本選手

今年も一般公開します

CHECK
01

松本大学・松商短大 『第58回 梓乃森祭』

[開催日]

一般公開

10.19^土・20^日 INFINITY.

[テーマ]

INFINITY.

このテーマには、「私たちの可能性は無限大である」といった意味が込められています。例年の方式に囚われず、可能性を追求し、模索しながら作り上げた第58回梓乃森祭、是非ともご注目ください!

多数のイベントや展示を予定しております。
詳細は梓乃森祭特設サイトをご確認ください。



※梓乃森祭に併せて松本大学同窓会主催による「ホームカミングデー」が開催されますので、卒業生はぜひご参加ください。
詳細は、松本大学同窓会HPにてご確認ください。

CHECK
02

第3回 松本大学健康首都会議 を開催



[開催日]

11.9^土

[会場] 松本大学 ※参加費無料

昨年に引き続き今年も本学を会場に、健康にかかわる講座の開催や体験教室など様々なブース出展を予定しております。詳細が決まり次第、松本大学ホームページや新聞記事でお知らせいたします。ぜひご参加ください。

みなさんのご参加
お待ちしております。

CHECK
03

【OC特別企画】 「高校生のための授業公開日」



のご案内 [開催日] 10.14^{月・祝}

大学生・短大生が実際に受けている授業を見学できます。教室内の雰囲気や高校の授業との違いなど、今後の進路選択の参考としてぜひお役立てください。また、授業見学だけでなく、自由にキャンパス内を歩いたり、学食での無料ランチを楽しむなど学生気分を体験できるイベントとなっています。オープンキャンパスとは一味違った松本大学・松商短大をぜひご堪能ください。

CHECK
04

「生化学」の 教科書が刊行

松本大学大学院 健康科学研究科長の山田一哉教授(健康栄養学科兼任)が編集に携わった、管理栄養士養成課程向けの「生化学」の教科書、『栄養管理と生命科学シリーズ』が理工図書より刊行されました。



構成・B5判 全370ページ
価格:3,300円(税別)

【内容紹介】

「生化学」をより平易に理解できるように、個々の物質代謝、その関係性、調節のメカニズムについて、生体で何がどう変化すればどう影響するのかなどストーリー性を持たせた。また、本文中で学んだ知識をすぐに定着できるように例題を、さらに1章を学んだあとに知識を確認できるように、実際の国家試験問題を章末問題として掲載。一つ一つ丁寧に理解しながら、物質代謝とその調節についての全体像を自分の頭の中で映像として構築し、内容を他人に説明できることで、「生化学」をマスター出来るように工夫している。

編集後記

9月になっても終わらない酷暑。春と秋が一瞬で終わり、暑すぎる夏と温暖化した冬が長く続く「二季化」現象が始まったと言われ、近い将来「4月にセミが鳴き、紅葉のクリスマスになる」と予測する専門家もいるようです。そしてこの「危険な暑さ」は日本の夏の姿も大きく変えています。団扇の代わりに手には小型の扇風機「ハンディファン」、浴衣の代わりに内蔵されたファンが服の内部の空気を循環させる「ファンジャケット」、そして打ち水の代わりに冷やした「ネッククーラー」を首に巻いて涼をとる。「これまでの夏の常識」を変えなければ乗り切れない暑さ…そんな夏になってきているのかもしれない。(記・入試広報室長 坂内 浩三)

松本大学の『今』を知るなら、公式SNSへ!

本学ではホームページのほか、Instagramからもさまざまな情報を発信しています。ぜひお気軽にフォローしてください



松本大学
Instagram



健康栄養学科
Instagram



教育学部
Instagram



松本大学・松商短大

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 TEL 0263-48-7200
www.matsumoto-u.ac.jp